
赤き目の竜

斜之

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤き目の竜

【Nコード】

N2874I

【作者名】

斜之

【あらすじ】

一鏡の呪い

夜12時を回ると鏡から死神が現れる。

死神は自分をもっとも憎む輩を殺してくれるという……

そしてその代償は……自分の心、だという。

死神を呼び出すには自分の血で鏡にくい奴の名前を書き叫ぶだけ。もし本当に憎いのであれば叶えてくれるはずさ。

貴方には死神を呼ぶ勇気があるかい？

記憶（前書き）

初作品になります。

いたたまれない所もあるでしょうがどうか優しく見守ってやってください。

記憶

一肌になつとりとした感触が伝う

空を見上げれば一面の夕焼け・・・いや、そのように生易しいものではなくもつとどす黒い何か空一面の赤さを際立てていた。眺めているだけで目が、頭がおかしくなりそうだった。

一両足に、右手に、背筋に・・・すべての筋肉が一瞬にして強張る本来なら青々しく緑輝く草木達も息絶えたかのように下を向きその身の色を薄黒くさせ生気をまるで感じさせないようだ。所々ついた赤い雫や緑色した雫がやけに目立っている

一視界がぼやけ全神経を目の前の一点に集中させる

そのような異形の世で貪り、傲慢に、蔓延るそれ・・・

鋭きその爪で何人もの同業を殺されたのだろうか？

鋭きその牙で何人もの人間を捕食してきたのだろうか？

一來る・・・っ！

上を見ていたはずの三つの赤き目がこちらを見る。

濁りきった赤い目をしたそいつは叫ぶ

濁った赤に写るのは・・・

のどの奥が見えるほど笑いながら大剣を振り下ろす赤い眼をした自

分
だ
っ
た。

記憶（後書き）

これはまだグロではないよ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2874i/>

赤き目の竜

2010年12月14日15時20分発行